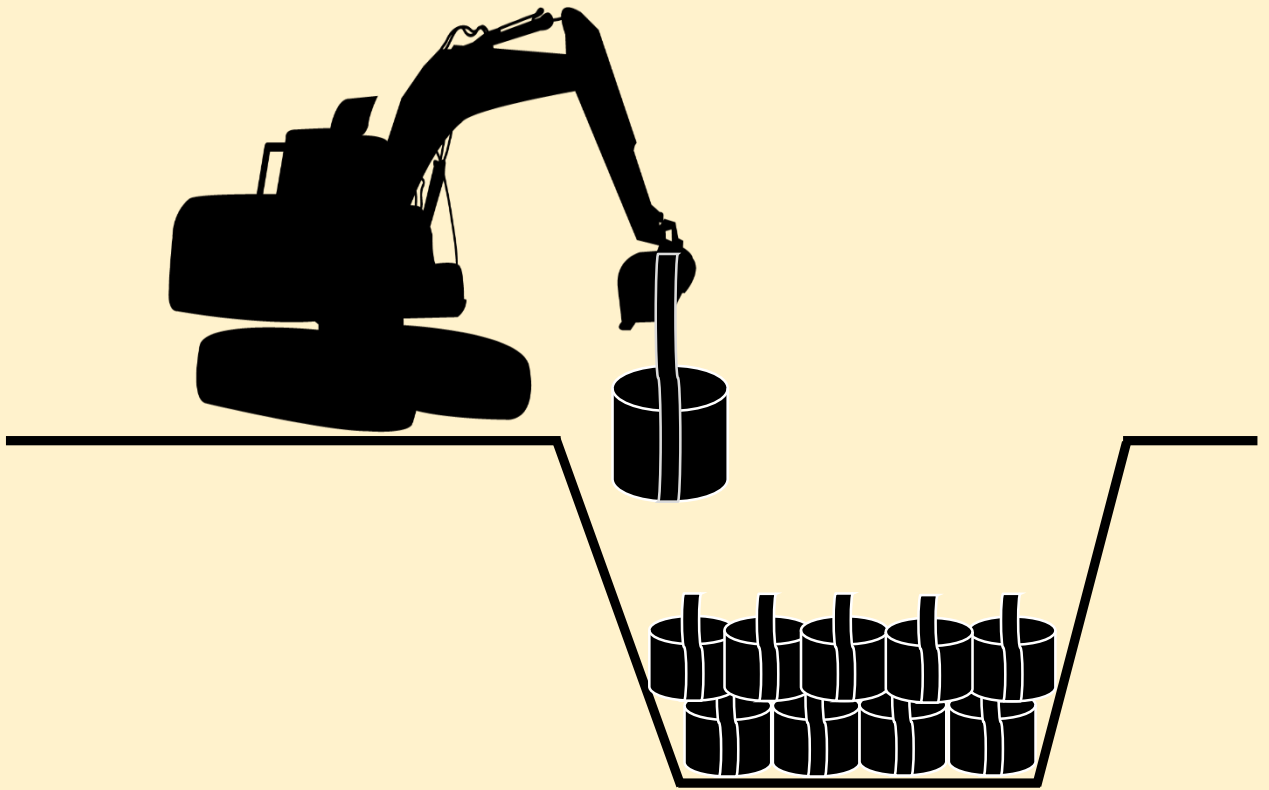


家畜伝染病が発生したら!!

～家畜伝染病発生時の埋却作業マニュアル～



令和3年1月
宮城県農政部

目次

■	家畜伝染病が発生したら	1
■	埋却作業の流れ	2
■	埋却が必要な対象物	3
■	埋却前の準備作業	4
■	1. 埋却候補地の地形等条件	5
■	2. 埋却スペースの規模推定	6
■	3. 重機等の進入ルート確保	9
■	4. 必要な資機材の手配	10
■	家畜伝染病発生時の初期対応	17
■	その他埋却作業の注意点等	20
■	安全確保 作業者の安全確保	21
■	注意点1 フェンス設置箇所と高さ	22
■	注意点2 掘削作業の注意点	23
■	注意点3 作業中に雨が降ってきた場合	24
■	注意点4 農場外の埋却地への運搬	25
■	注意点5 消石灰の散布方法	27
■	注意点6 ブルーシートの設置方法	28
■	注意点7 家畜・家きん等の吊り込み	29
■	注意点8 埋め戻し	30
■	確認シート① 埋却情報及び工程表	31
■	確認シート② 埋却チーム関係資材一覧（例）	32
■	参考資料① 資材の調達	34
■	参考資料② 防疫フェンス図面（参考）	35
■	参考資料③ 埋却作業の流れ	36

※本資料は、農林水産省「高病原性鳥インフルエンザに関する防疫マニュアル～本病の感染拡大を防ぐために～」(平成23年12月)及び「各特定家畜伝染病防疫指針」(令和2年7月1日)、宮崎県「口蹄疫防疫マニュアル」(平成23年4月)を参考に作成しています。また、写真の一部は宮崎県から提供頂いたものを使用しています。

家畜伝染病が発生したら！！

病気を封じ込め、蔓延を防止するため、患畜の殺処分や処分家畜等の埋却処理等について、速やかな対応が求められます。

畜舎での殺処分

疑似患畜判定後、原則
24時間以内

埋却処分

疑似患畜判定後、原則
72時間以内

そのためには何を検討？

処分頭羽数から
埋却地の規模
を推定

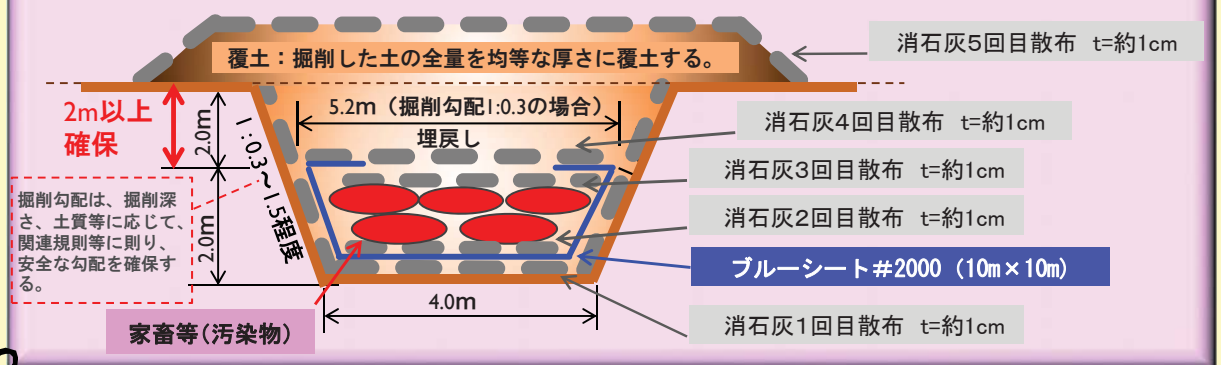
処理時間を満足させる
重機台数や資機材数量
を概略算定

速やかな手配

埋却作業の流れ

【埋却穴の標準作業断面図】

※標準掘削長さ1.0mとする。



作業の流れ



○防疫フェンスの設置

埋却地が発生農場の外にある場合、ウィルスの散逸防止等のため防疫フェンスを設置。

○シート敷設

地下水の汚染防止や周辺環境等への配慮のため、掘削面にブルーシートを敷設。

○掘削・埋戻し

掘削深さは4m程度とする。埋戻し厚さは、体液を吸収し噴出を防ぐため、2m以上を確保。

埋却が必要な対象物

発生農場等に由来する以下の物品は、汚染物品として、原則として埋却処分することになります。

ただし、現場の状況等から埋却が困難な物品については、焼却等する資材等もあるため、家畜防疫員等の獣医師の指示に従う必要があります。

埋却の対象物

- 殺処分家畜等
- 飼料、敷料、排せつ物
- 家きん卵等
- 患畜等に接触又は接触した恐れのある物

埋却に適さない物品の例

○防疫作業で使用した汚染物品（自然分解されない物）

- ・防護服（手袋、ゴーグル等を含む）
- ・ブルーシート

※防疫作業で使用した汚染物品（防護服、ゴーグル等）は、廃棄物業者に処理を委託する場合もあるため保管方法に留意する。

※防疫作業完了後の消毒作業などに使用した防護服等は、汚染物品とはなりません。

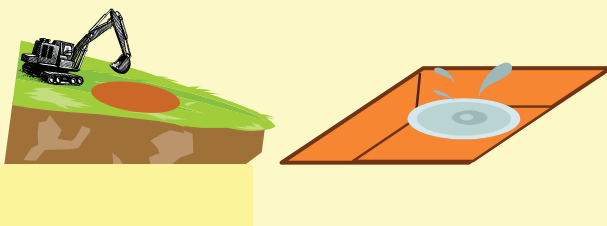
※スコップ、一輪車、ヘルメット、長靴、カメラ(防水機能付き)等は、消毒を実施すれば、再度利用可能な物品については処分(埋却or焼却)する必要はありません。

処分(埋却、焼却)が必要かの判断は、家畜防疫員等の獣医師の指示に従いましょう。

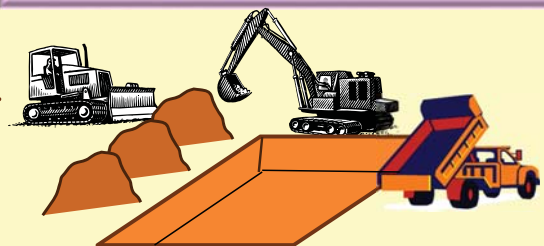


埋却前の準備作業

1. 埋却候補地の事前調査



2. 埋却スペースの規模推定



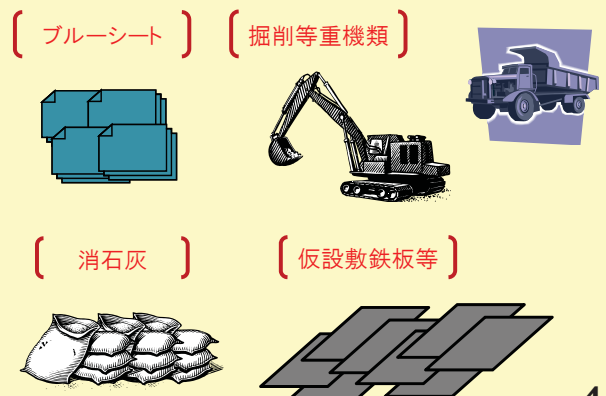
3. 重機等の進入ルート確保



道幅が狭い
障害物？

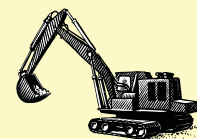
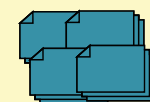
敷鉄板で拡幅
新たなルート選定

4. 必要資機材の早急な手配



〔ブルーシート〕

〔掘削等重機類〕



〔消石灰〕

〔仮設敷鉄板等〕



1. 埋却候補地の地形等条件

埋却候補地について事前調査を行う場合、下記項目等により埋却候補地が適地かどうかの判断を行います。

①埋却候補地の広さ等

○処理物の埋却に必要な敷地面積を確保できるか。

②埋却地周辺の状況

○民家、河川及び道路に近接していないか。

③「水」との接触

○井戸等の利活用水源等に近接していないか。
○適切な埋却深より上方に地下水が出現しないか。

④埋却候補地の地形等

○文化財包含地、保安林指定地、河川区域等に該当していないか。
○傾斜地等で土砂崩れや降雨等による洗掘等の恐れはないか。
○岩など掘削困難な土質が出現し、適切な埋却深さの確保に支障を来さないか。



2. 埋却スペースの規模推定 (1)

※掘削勾配1:0.3の場合

◆埋却穴1カ所当たりの標準掘削長:10m

◆掘削量:240m³、埋却容量:100m³

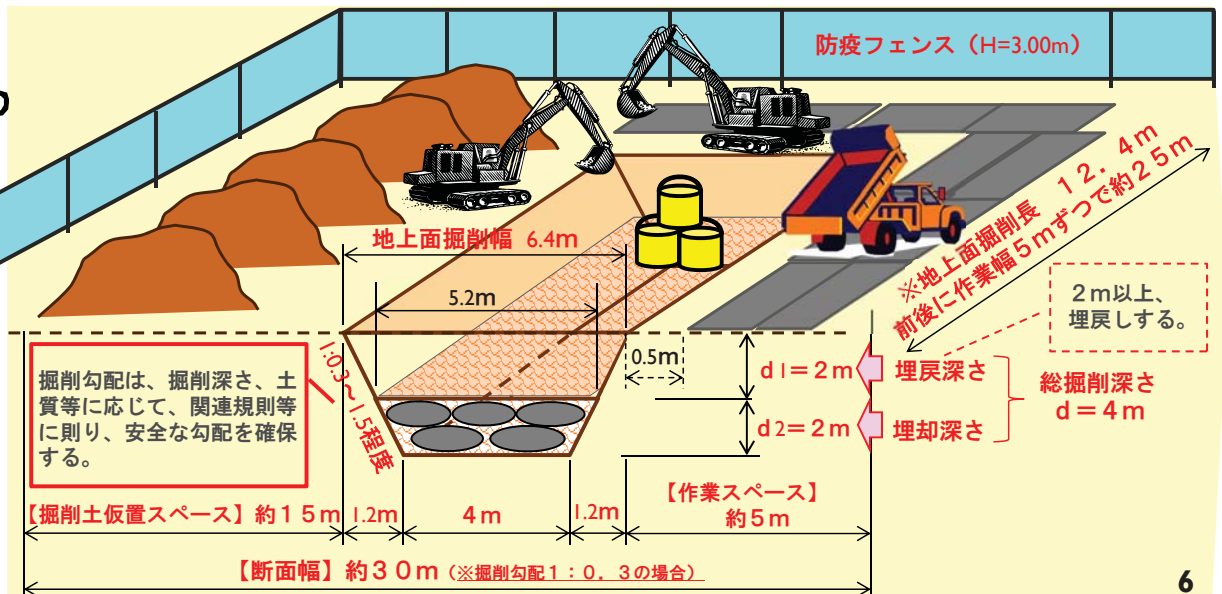
※牛1頭当たり処理量は、牛体、堆肥、残飼料等含め7m³/頭
牛体:1m×1m×2m(重さ:500~700kg/頭)

➡埋却穴1カ所当たり牛で約15頭の処理が可能

【必要作業面積】

※牛体等は二段重ねまでとする。
※地上面掘削面積6.4m×12.4m
※「作業スペース幅」等を確保すると約30m×約25mの面積が必要。
★作業面積=750m²(約1,000m²)

【埋却地における標準作業イメージ】



2. 埋却スペースの規模推定（2） ※掘削勾配1：0.3の場合

埋却穴の掘削長、作業スペース及び家畜種別毎の埋却処理可能頭羽数の関係については、下表のとおりです。

埋却穴の掘削長は、埋却後の体液等噴出による埋却地周辺の環境汚濁を防止するため、**1箇所当たり10mを標準**とし、埋却頭数に応じて、適宜、埋却穴の数の増設で対応します。※処理頭数には、敷料・排せつ物の処理量も含む。

なお、大規模畜産農家での大量発生や埋却地スペースに制限等がある場合は、状況に応じて掘削長の延伸で対応することもあります。

また、敷料や排せつ物などは、散逸防止措置を講じた上で、発酵によって消毒してから堆肥化することもあります。

連続掘削長	掘削量	必要面積	牛	豚 (繁殖豚)	豚 (肥育豚)	鶏 
10m	240m ³	750m ² 8a	15頭	45頭	135頭	8,000羽
20m	450m ³	1,050m ² 10a	25頭	75頭	230頭	16,000羽
30m	650m ³	1,350m ² 14a	40頭	120頭	360頭	23,000羽
40m	860m ³	1,650m ² 17a	55頭	170頭	500頭	31,000羽
50m	1,100m ³	1,950m ² 20a	65頭	200頭	600頭	38,000羽

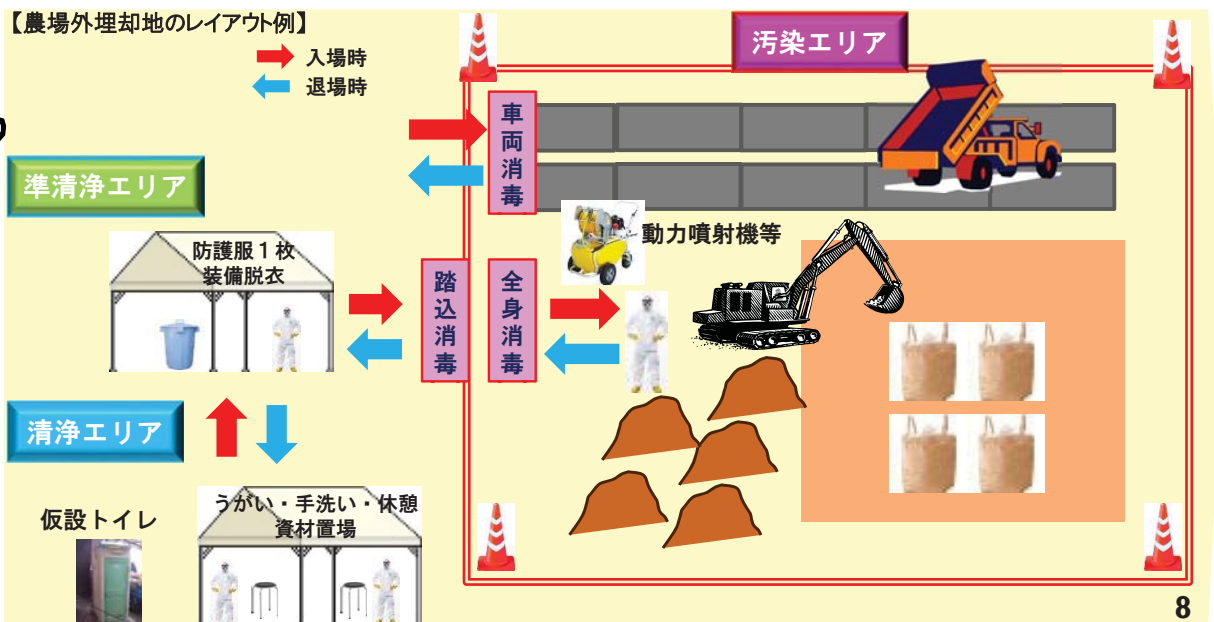
掘削長を連続で延ばす場合

7

2. 埋却スペースの規模推定（3）

発生農場と埋却地の距離が離れる場合は、埋却スペースの他、仮設テント及び仮設トイレを設置するスペースを確保する必要があります。

また、埋却地も清浄エリアと汚染エリアを明確に区分する必要があります。下記に埋却地のレイアウトの参考例を示します。



8

3. 重機等の進入ルート確保

埋却地への重機等の進入ルートについて事前調査を行い、敷鉄板等必要な仮設資材の検討を行います。

【埋却地への進入路確保】

- 埋却地は発生農場の敷地内への設置を原則としていますが、**幹線道路からの進入路が狭い場合等は、敷鉄板等の仮設資材が必要**となります。
- 門や塀、立木等の**障害物がある場合は、新たに進入路を造成**する場合があります。
- 農場敷地内に**埋却地を確保できない場合や、複数農場で同時発生するなど、処理頭数が膨大**となる場合には、**発生農場から離れた場所に埋却地を造成**するケースもありますので、**進入路等の造成が必要**となります。



- ①障害物があり、別ルートを確認しなければならない？
- ②進入路が狭いため、敷鉄板等の仮設資材が必要



敷鉄板で拡幅
新たなルート選定

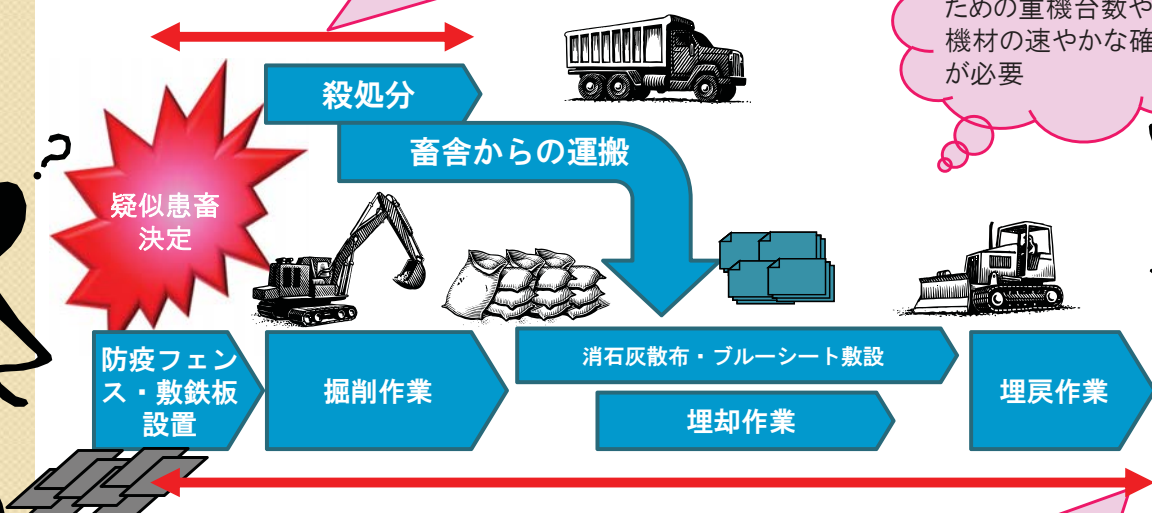
道幅が狭い
障害物？

9

4. 必要な資機材の手配（1）

⇒患畜の殺処分は、**【疑似患畜判定後、原則24時間以内】**、埋却作業は**【同72時間以内】**
そのため、この時間内で作業完了できるよう、重機台数や資機材等の手配が必要となります。

「疑似患畜判定後」から24時間以内完了



時間内に終わらせるための重機台数や資機材の速やかな確保が必要

「疑似患畜判定後」から72時間以内完了

10

4. 必要な資機材の手配（2）

- ①「殺処分」された家畜等は直ぐに埋却地に運び出しますので、埋却地での「掘削作業」は畜舎での「殺処分」が滞らないよう同時並行で進められる重機台数が必要となります。
- ②畜舎と埋却地が離れている場合は、畜舎からの運搬時間が作業全体のスケジュールを左右しますので、運搬車両の台数がポイントになります。



4. 必要な資機材の手配（3）

◆掘削作業に要するバックホウ台数の目安
(10m掘削長埋却穴で算出)



埋却穴断面 ⇒ 底幅B1=4m、地面幅B2=6.4m、深さH=4m
掘削延長 ⇒ L=10m(地上面幅L1=12.4m)

◆埋却穴掘削長10mで算出

※掘削勾配1：0.3の場合

★埋却穴10m掘削量 ⇒ $V=240\text{m}^3$

★バックホウ(山0.80 m^3 級)能力 ⇒ $V1=300\text{m}^3/\text{日}$, 供用日当運転時間6.3hr/日

★バックホウ(山0.45 m^3 級)能力 ⇒ $V2=150\text{m}^3/\text{日}$, 供用日当運転時間6.3hr/日

【掘削作業に要する時間】

〈0.8 m^3 級〉 $240\text{m}^3 \div 300\text{m}^3/\text{日} \times 6.3\text{hr}/\text{日} \Rightarrow 5.1\text{hr}$

〈0.45 m^3 級〉 $240\text{m}^3 \div 150\text{m}^3/\text{日} \times 6.3\text{hr}/\text{日} \Rightarrow 10.1\text{hr}$

0.8 m^3 級	1台	5.1時間	2台	2.6時間	3台	1.7時間
0.45 m^3 級	1台	10.1時間	2台	5.1時間	3台	3.4時間

4. 必要な資機材の手配 (4)

運搬作業

◆ 殺処分された牛運搬に要するダンプ台数の目安
※ 埋却場所が遠距離の場合



牛1頭のおおきさ ⇒ 重さ: 700kg、体積: 2m × 1m × 1m (=2m³)
堆肥・残飼料等量 ⇒ V1=5m³/頭

◆ 死亡牛: 15頭処理で算出

※ 掘削勾配 1 : 0.3 の場合

※ 4tダンプの場合

★ 死亡牛: 1台あたり5頭(3.5t) ⇒ 3台
★ 堆肥・飼料等: 75m³ ÷ 2.2m³/台 ⇒ 34台 } **合計 ⇒ 37台 必要**



【畜舎から埋却場所までの時間】 ※ 運搬距離5kmとした場合
①「畜舎での積込」(10分)、②「運搬(往復)」(20分)、③「埋却箇所への荷下ろし」(20分)
④「消毒」時間(10分) ⇒ 畜舎から埋却場所まで 1.0時間/往復

5台

7.4時間

10台

3.7時間

15台

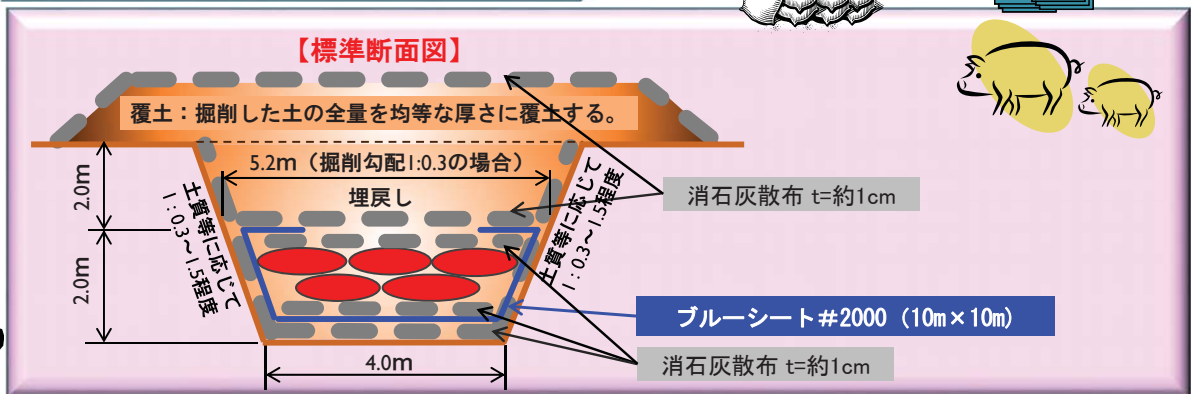
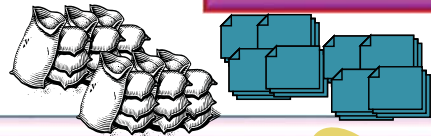
2.5時間

13

4. 必要な資機材の手配 (5)

消石灰散布作業
ブルーシート敷設

◆ 消石灰及びブルーシートの必要量
(埋却穴掘削長10m → 1箇所当たりで算出)



◆ 埋却穴掘削長10mで算出

※ 牛15頭処理相当

※ 掘削勾配 1 : 0.3 の場合

★ 消石灰散布量 ⇒ A=420m² 厚さは10mm換算 ⇒ W=2.1t (※ w=0.5t/m³とする。)
★ ブルーシート敷設量 ⇒ N= 2枚 (規格10m × 10m)

【参考】 消石灰及びブルーシート 箇所数当たり概算数量 (頭数は牛の場合)

【消石灰】



1箇所
15頭

420m²
2 t

2箇所
30頭

840m²
4 t

3箇所
45頭

1,260m²
6 t

5箇所
75頭

2,100m²
10 t

【ブルーシート】



1箇所
15頭

2枚

2箇所
30頭

4枚

3箇所
45頭

6枚

5箇所
75頭

10枚

4

【参考】

埋却穴掘削長を連続で延伸する場合の主要資材数量

※処理頭数には堆肥・残飼料等含む。

※家畜等の月齢や堆肥・残飼料等の量によって、処理頭数は変わる。

※掘削勾配1：0.3の場合



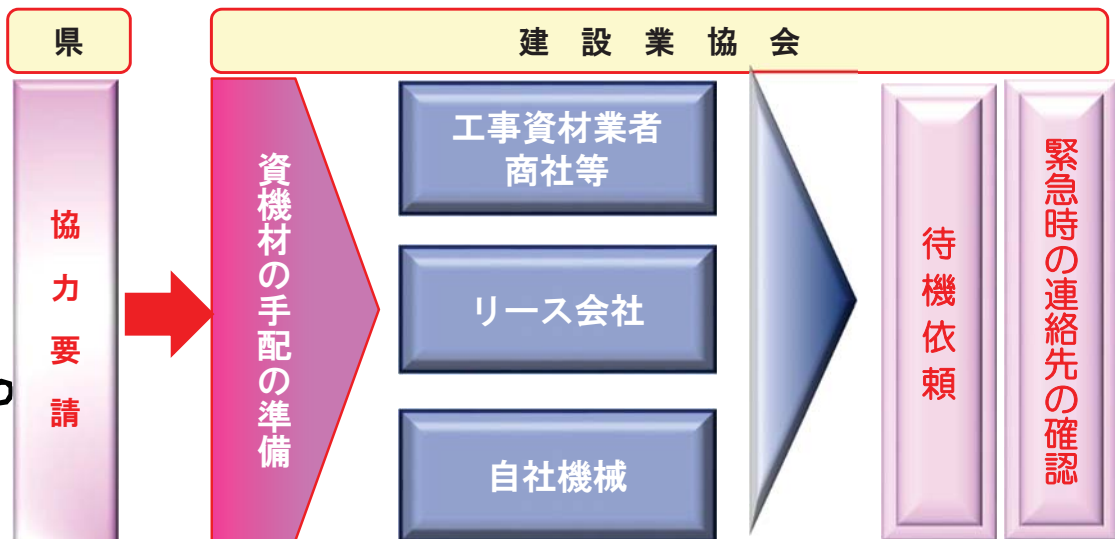
連続掘削長	ブルーシート	消石灰	牛	豚 (繁殖豚)	豚 (肥育豚)	鶏	鶏の場合 トンパック
10m	2枚	420m ² 2 t	15頭	45頭	135頭	8,000羽	40枚
20m	3枚	750m ² 4 t	25頭	75頭	230頭	16,000羽	80枚
30m	4枚	1,100m ² 5 t	40頭	120頭	360頭	23,000羽	115枚
40m	5枚	1,400m ² 7 t	55頭	170頭	500頭	31,000羽	155枚
50m	6枚	1,800m ² 9 t	65頭	200頭	600頭	38,000羽	190枚

掘削長を連続で延ばす場合

15

4. 必要な資機材の手配（6）

緊急時に速やかな手配・連絡が可能か？



(建設業協会が調達)

- 建設重機
バックホウ
運搬トラック等
- 仮設資材
敷鉄板等

(現地地方支部が調達)

- 資材
ブルーシート
消石灰
フレコンバック
木杭・ロープ等

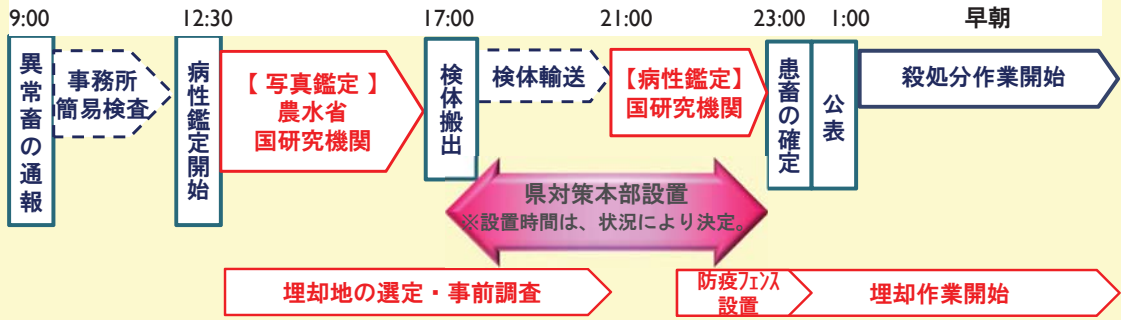
- 仮設資材
防疫フェンス用単管パイプ
ブルーシート
投光器・発動発電器
- その他
仮設テント・仮設トイレ
椅子・机
おが粉 等々

※上記■は、必要に応じて建設業協会へ資材等の調達を依頼する場合もある。

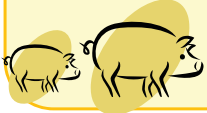
16

家畜伝染病発生時の初期対応（その1）

口蹄疫発生初期の対応スケジュール（朝の給餌で発見する例）



建設業協会との連絡・調整

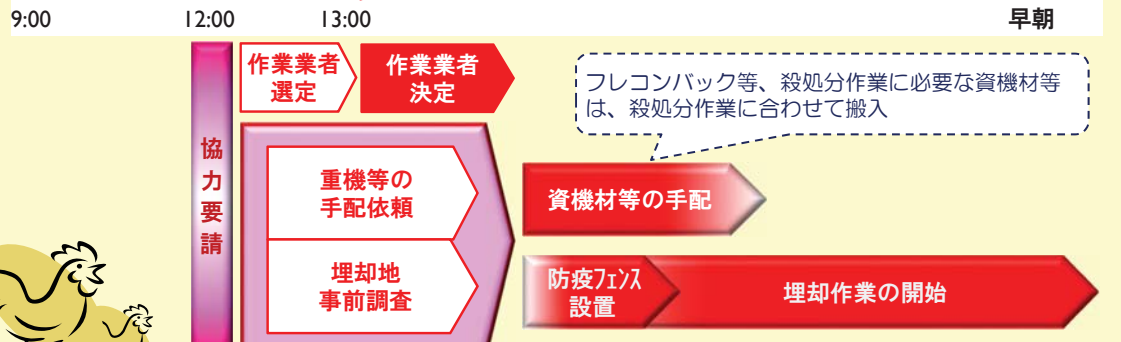


家畜伝染病発生時の初期対応（その2）

鳥インフルエンザ発生初期の対応スケジュール（朝の給餌で発見する例）

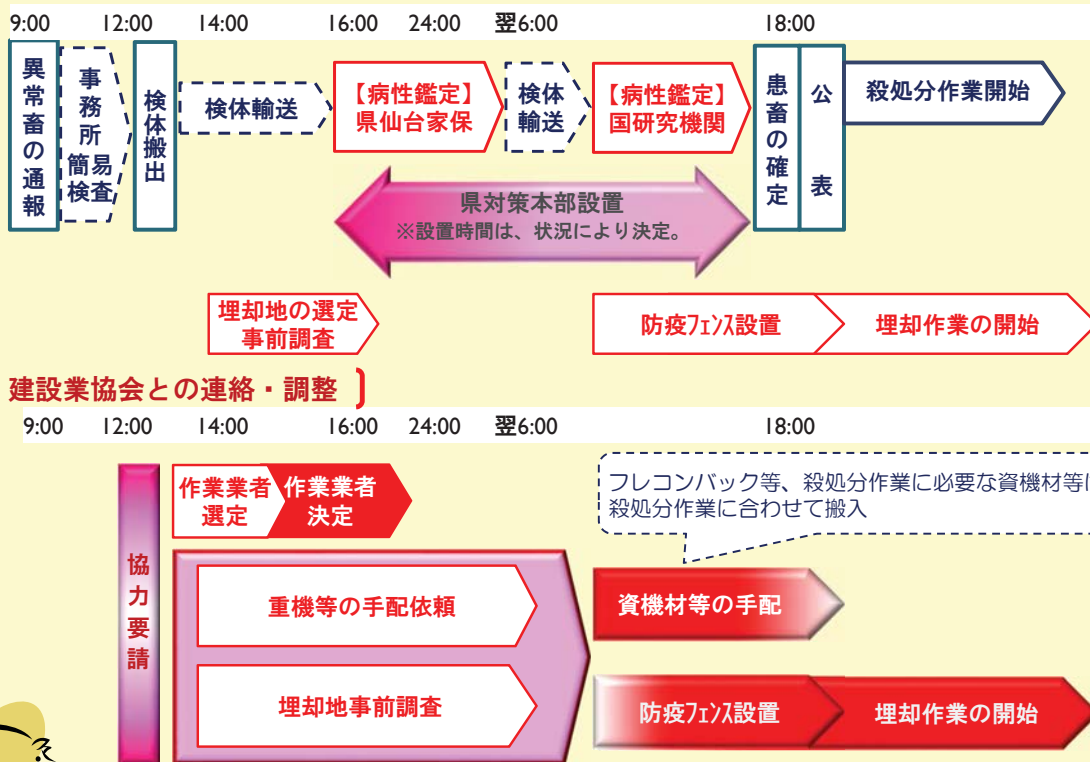


建設業協会との連絡・調整



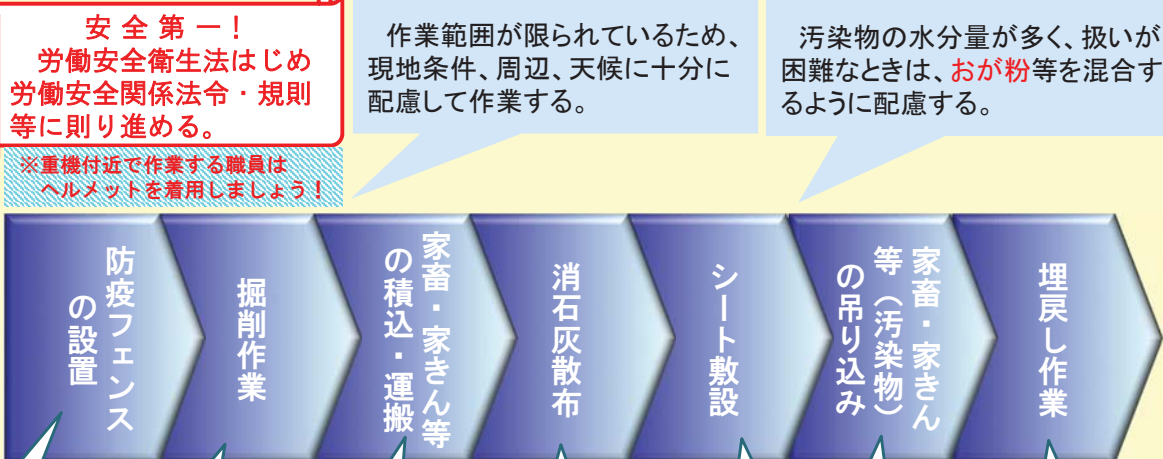
家畜伝染病発生時の初期対応（その3）

CSF（豚熱）発生初期の対応スケジュール（朝の給餌で発見する例）



その他埋却作業の注意点等

作業の流れ



【注意点1】
フェンスをどこに、どれくらいの高さで設置するの？

【注意点2】
掘削作業の注意点は？
【注意点3】
作業中に雨が降ってきたらどうするの？

【注意点4】
農場外の埋却地に運搬する場合の注意点は？

【注意点5】
消石灰はどのように散布するの？

【注意点6】
シートはどのようにして敷設するの？

【注意点7】
家畜・家さんの吊り込みはどのようにするの？

【注意点8】
埋め戻しする時の注意点は？

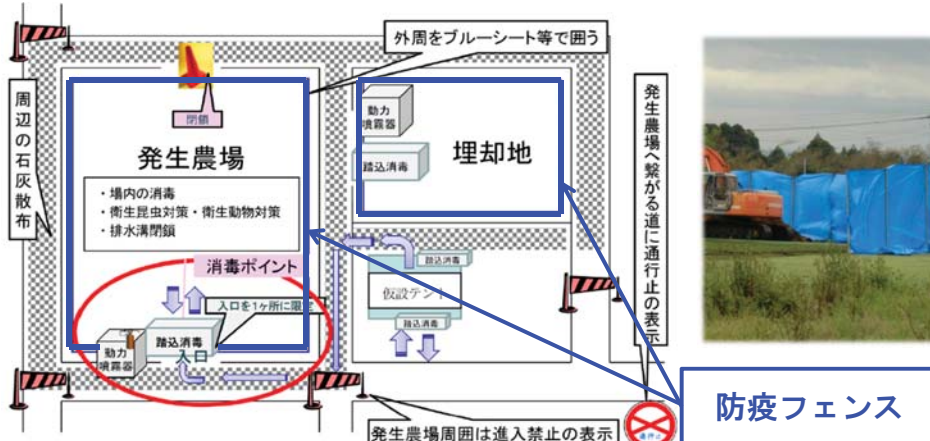
埋却等の作業は、労働安全衛生法をはじめ、労働安全関係法令・規則等を遵守し、以下に留意し安全に作業を進める必要があります。

- ① 高所又は埋却穴の法肩(端)近くで作業する場合、作業上の安全確保、特に転落防止に注意する。
また、必要に応じて、トラロープや夜間点滅等する保安装置を設置する。
- ② 作業時は、**必ずヘルメットを着用**する。
- ③ 重機の作業中は、その**旋回範囲内(重機が届く範囲)に立ち入らない**。
- ④ 重機の周囲で作業する場合、重機が停止したことを確認し、オペレータに合図してから作業を行い、作業終了後は重機から速やかに離れる。なお、作業中の安全確保のため、各係長(安全管理者)及び世話役を配置する。
- ⑤ 水を含んだ消石灰が肌に接することによって炎症を起こすことがあるため、消石灰の散布作業の前には、防疫服等を適切に装着し皮膚の露出をできる限り少なくする。
- ⑥ 石灰等が肌に付着した場合には、すぐに水で洗い流す。
- ⑦ 土質にもよるが、埋却穴が崩落することがあるので、作業中は十分注意する。



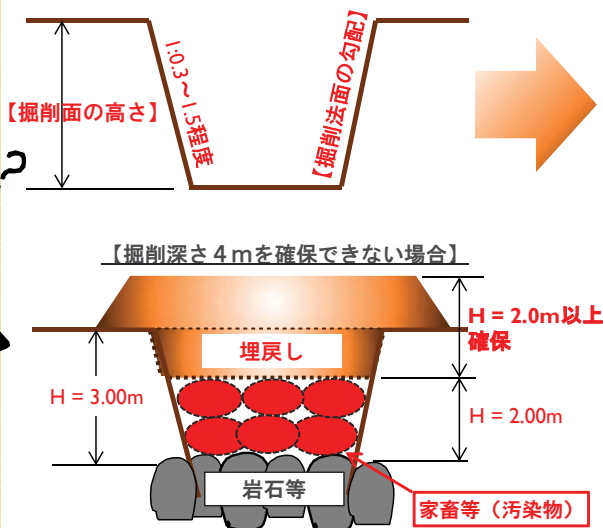
21

- ① 埋却地が発生農場の外にある場合は、ウィルスの散逸防止のため、埋却作業の支障にならないように、**埋却地の周囲**に防疫フェンスを設置する。
 - ② 埋却穴から7m以上離れたところに、**3mの高さ**で鉄パイプを組み、**ブルーシート又は遮光ネット**を括り付ける。
 - ③ 使用後のシートは、感染性廃棄物として他の資材と共に処分する。
 - ④ 埋却地が発生農場の外にある場合は、**家畜・家きん等の搬入前**は汚染区域とはならないため、**防護服の着用は不要**です。
- ※防疫フェンス設置の必要性は、事前準備チームの家保防疫班職員が判断する。



- 掘削法面の勾配は、掘削深さや土質状態に応じ、関連規則等に則り安全な勾配を確保する。
- 作業員の埋却穴へ侵入しての作業は原則禁止。
- 予期しない岩石等の出現で深さ4mまで掘削できない時は、盛土厚さと埋戻し厚さを合わせて2m以上を確保できれば、掘削深さを3mまで縮小できる。

【掘削面の勾配の考え方】



【参考：切土法面(床堀) 土質別切土法面(床堀)勾配】

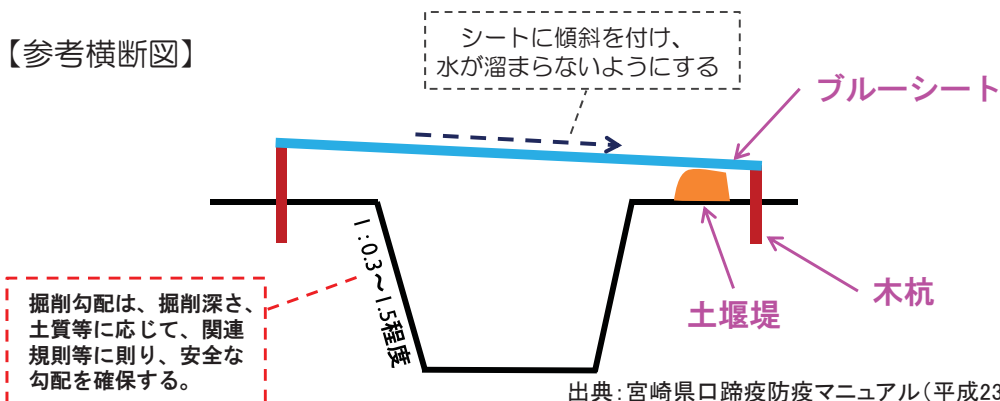
地質	法高		
	2m未満	2m以上 5m未満	5m以上
岩又は堅い粘土	0~0.1	0~0.3	0.3~
粘性土	0~0.3	0.2~0.5	0.6~
シルト	0.2~0.4	0.3~0.6	1.0~
砂質土	0.4~0.6	0.5~1.2	1.2~
砂	1.5	1.5~	—
礫及び礫質土	0.3~0.8	0.6~1.5	—
ゆるんだ地山	1.0	—	—

(土地改良工事数量算出要領(案)第2章 土工(2)法面勾配より)

23

- 埋却穴に雨水が入らないように掘削は必要最小限にする。
- 法面が崩壊しやすくなるので、十分に注意して作業する。
- 土堰堤や小排水溝を設置し、埋却穴へ雨水が流入しないようにする。
- 殺処分家畜等を投入する前であれば、埋却穴にポンプを設置し、雨水を排出する。
- 殺処分家畜を投入した後は、埋却穴内の雨水を地表に排水してはいけない。
→自然に水が引くのを待つか、「おが粉」等を吸着材として投入。
- 埋却穴に雨水が入らないようにブルーシートで覆う。

【参考横断図】



出典：宮崎県口蹄疫防疫マニュアル(平成23年4月)

24

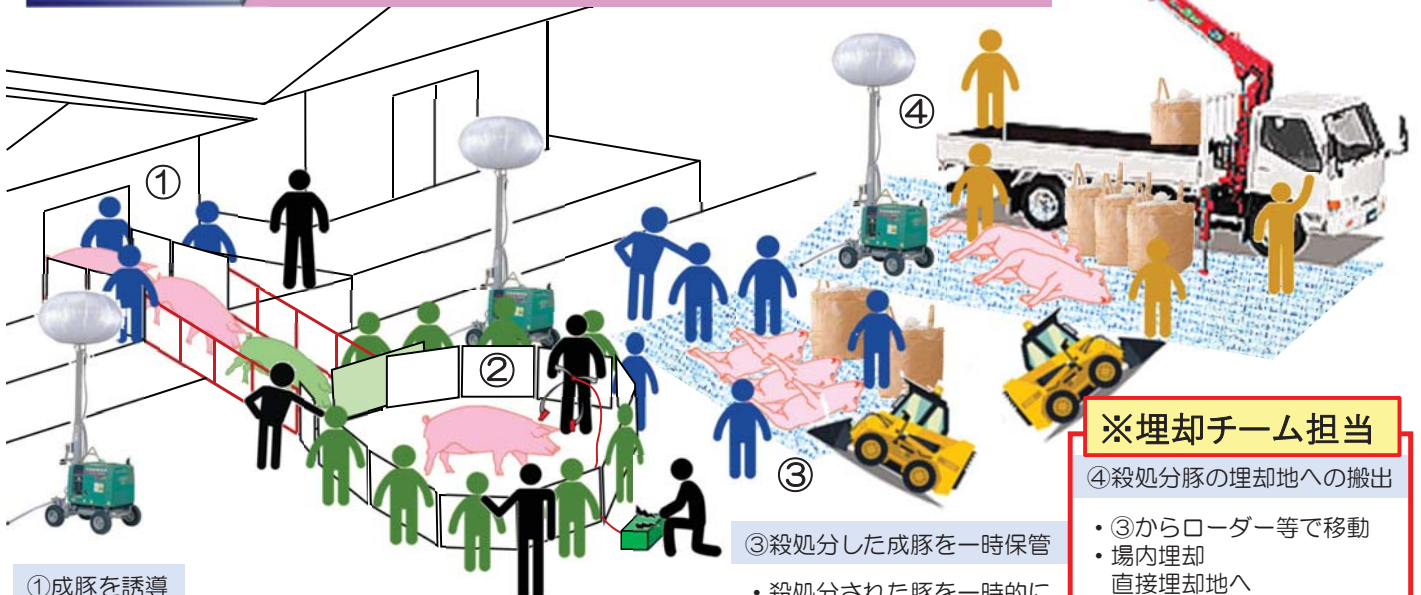
発生農場内に埋却地がない場合、埋却地まで殺処分家畜等が詰まったフレコンバックをトラックで運搬する際はウイルス拡散を防ぐ必要があり、運搬にあたっては、下記の措置を講じる必要があります。

- ①原則として運搬物が漏洩・飛散しないように荷台の床及び側面をシートで覆い、さらに運搬物を積載後、上部もシートで覆う等の措置を講じます。
- ②車両への積載前後には、車両全体を念入りに消毒します。
- ③原則として、他の農場の付近を通行せず、かつ、他の畜産関係車両が利用しない移動ルートを設定し、さらに、消毒ポイントにおいて車両を十分消毒します。
- ④運搬後は、車両及び資材を直ちに消毒します。



出典：高病原性鳥インフルエンザに関する防疫作業マニュアル～本病の感染拡大を防ぐために～

(平成23年12月)農林水産省 25



①成豚を誘導

- ・誘導路をコンパネや誘導柵等で確保（豚舎内の誘導路も留意）
- ・成豚の誘導には、鞭等で
- ・②の殺処分場所の手前で停止させる（2重に）。
- ・作業従事者の間で声がけして！
- ・できるだけ、成豚は間があかないよう②の殺処分場所に誘導できるよう工夫する。

②電殺及び薬剤注入

- ・リーダー1名
- ②全体をコントロール
- ・電殺機の操作は1人15分
- ・4名獣医師でローテーション
- ・殺処分場所はコンパネで囲う
- ・スイッチは操作者の一声で！
- ・周囲への注意；リーダー
- ・電殺後、薬剤を心臓に注入

③殺処分した成豚を一時保管

- ・殺処分された豚を一時的に保管（評価）
- ・②から③へ移動させる方法は様々
- ブルーシート上で引っ張る
- ロープで引きずる
- 4名で足を持って移動

※埋却チーム担当

④殺処分豚の埋却地への搬出

- ・③からローダー等で移動
- ・場内埋却
- 直接埋却地へ
- ・場外埋却
- 搬出用トラックへ
- ※フレコンに入れるか否か？

埋却班搬出係：6名

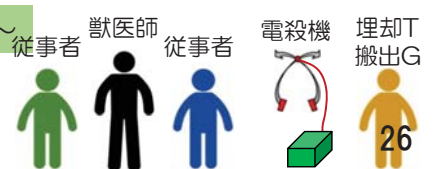
運搬係：15名～

評価係：2名

誘導係：15名～

囲込係：15名～

殺処分係：4名



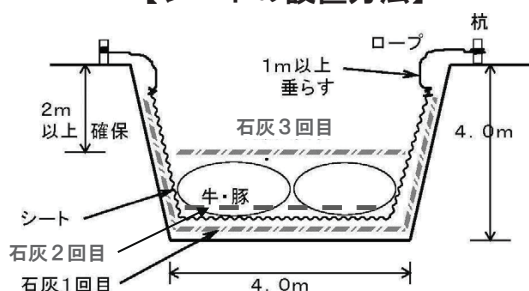
- ①底面を中心に掘削面全体に消石灰を散布する。
- ②消石灰は、作業に応じて計5回散布する。
- ③クレーン機能付きバックホウの玉掛けフックに消石灰(フレコンバック)を吊るして、底面にカッター等で穴を開けて、散布する。
- ④散布作業にあたっては、隣接する農地等へ飛散しないように十分、注意する。
- ⑤作業員等が埋却穴に進入しての作業は原則禁止する。



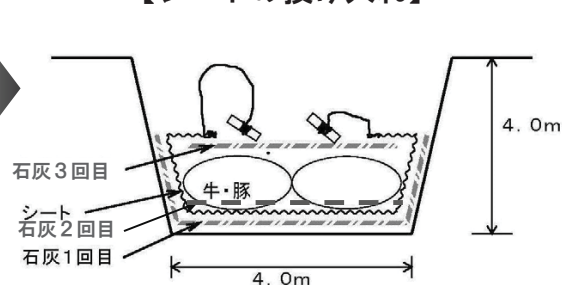
27

- ①地下水の汚染防止や周辺環境等への配慮のため、掘削面にブルーシート(10m×10m)を設置する場合。
- ②シートにはロープを結び、木杭(約2m間隔で打設)に結束し、固定する。ロープにある程度、たるみを持たせておく。
(家畜等投入時にシートが引っ張られて破れないようにするため)
- ③シート天端が地表から1m程度、下がる状態が良い。
- ④次のシートを設置するときは、2mの重ねを確保すること。
- ⑤ブルーシートは家畜等全体を覆わないように、投げ入れること。
- ⑥作業員が埋却穴に進入しての作業は原則禁止とするが、作業上等やむを得ない場合は、土砂崩壊等に十分注意して出入りする。

【シートの設置方法】



【シートの投げ入れ】

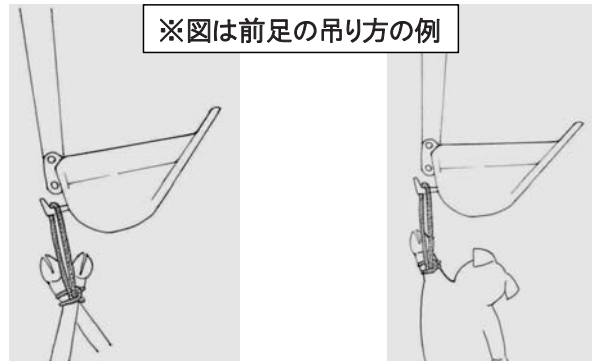


- ① 殺処分家畜等が詰まったフレコンバックを玉掛けフックに掛けて投入する。
- ② フレコンバックに詰める事が困難な家畜は、輪にしたロープ（直径7～9mm）を**家畜前足に結び**、玉掛けフックに掛けて吊るし、投入する。
家畜の重量に応じて、ロープ輪の結びを二重にするなど適切に結ぶ。
- ③ 吊ったときに胃の内容物等が出ることから、**頭を上にして前足を吊る**。
- ④ 牛は前足2本、豚は1本に掛ける。
- ⑤ 作業員等の埋却穴への侵入は原則禁止されているので、埋却穴への家畜・家きん等の投入は、**オートフックを使用することを原則とする**。

【フレコンバックの場合】



【牛の場合】

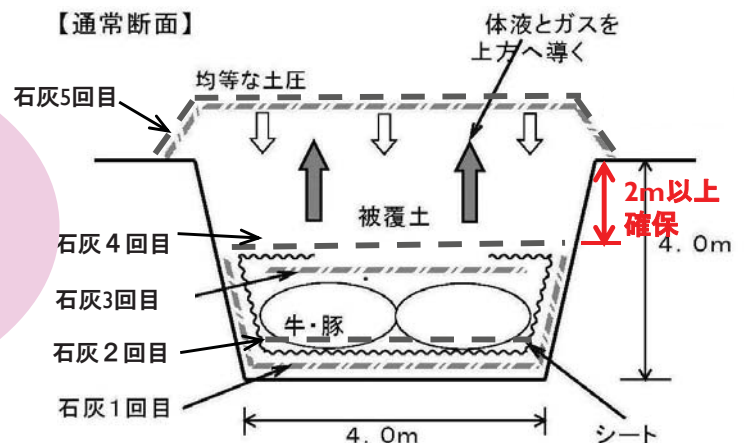


【豚の場合】

出典：宮崎県口蹄疫防疫マニュアル（平成23年4月）

- ① 家畜等投入後の石灰4回目層から、**2m以上**埋戻し厚を確保する。
- ② 重機による**締固めは行わない**ように埋め戻しする。
（埋戻し土及び覆土をバケツ等で押さえない。）
- ③ 埋め戻した土の上に、**重機を乗り入れることはしない**。
- ④ 掘削した土の**全量**を覆土し、均等な厚さになるようにする。
（山盛りにしない。）

埋め戻した土が固められることによって、家畜から発生するガスの放散、体液の浸透が妨げられ、**体液がガスと共に地表に噴出する可能性**がある。



出典：宮崎県口蹄疫防疫マニュアル（平成23年4月）

確認シート② 埋却チーム関係資材一覧(例)

(参考) 埋却チーム関係資材一覧表例

項目	資機材等	数量	単位	規格	備考
埋却地防疫フェンス(搬入先:埋却地)					必要な場合、H=3.0m、L=250mの場合
	単管パイプ	140	本	φ48.6mm、L=3.0m	縦用 1.8mピッチ
	単管パイプ	190	本	φ48.6mm、L=4.0m	横用(3箇所)
	単管パイプ	140	本	φ48.6mm、L=3.0m	控え 1.8mピッチ
	単管パイプ	140	本	φ48.6mm、L=1.5m	控え 1.8mピッチ
	単管杭	280	本	φ48.6mm、L=1.0m	縦用・控え 1.8mピッチ
	クランプ	1300	個		
	ブルーシート	80	枚	2.7m×3.6m	
	ビニロンロープ	5	巻	8mm、50m	
	脚立	2	個	H=2.0m	
	掛け矢	2	個		
	カッターナイフ	10	個	大型刃(L型)18mm	
積込(搬入先:発生農場)					
	投光器	2	機		
	発動発電機	2	機		投光器等用
	ガソリン携行缶	2	個	20L	投光器用
	ガソリン	40	L		投光器用
	クレーン付きバックホウ	2	台	0.8m3級、2.9t吊り	
	ブルーシート	2	枚	10m×10m	
	携帯電話	1	台		
	携帯電話予備バッテリー	1	個		
	誘導棒	2	本		
	乾電池	20	本		誘導棒用
	セーフティコーンパー	20	本		
	セーフティコーン(パイロン)	20	個		
	セーフティコーンウェイト	20	個		
	コーン用警告灯	5	個		
	コピー用紙	2	冊	A4 500枚	
	ボールペン	10	本		
	回覧板	2	個		
	ビニールバック	10	袋		
運搬(搬入先:発生農場)					
	トラック	2	台	4t積	
埋却(埋却地)					
	敷鉄板	10	枚		必要に応じて
	投光器	6	機		
	発動発電機	6	機		投光器等用
	ガソリン携行缶	6	個	20L	投光器用
	ガソリン	120	L		投光器用
	クレーン付きバックホウ	2	台	0.8m3級、2.9t吊り	
	消石灰	9	t	トバック	肥育豚600頭の場合
	消石灰	20	袋	20kg	
	ブルーシート	6	枚	10m×10m	肥育豚600頭の場合
	トラロープ	10	巻	8mm、20m	
	木杭	150	本		
	おが粉	5	m3		必要に応じて
	カラスプレー	10	本	赤 300ml	
	ホワイトボード	2	個		
	ホワイトボード用ペン	10	本		
	ホワイトボード消し	4	個		
	デジタルカメラ	2	台		
	携帯電話	1	台		
	携帯電話予備バッテリー	1	個		
	誘導棒	10	本		

確認シート② 埋却チーム関係資材一覧(例)

(参考) 埋却チーム関係資材一覧表例

項目	資器材等	数量	単位	規格	備考
	乾電池	20	本		誘導棒用
	セーフティコーンバー	20	本		
	セーフティコーン(パイロン)	20	個		
	セーフティコーンウェイト	20	個		
	コーン用警告灯	5	個		
	コピー用紙	2	冊	A4 500枚	
	ボールペン	10	本		
	回覧板	2	個		
	懐中電灯	2	個		
	乾電池	4	個		懐中電灯用
	スタッフ	2	個	5m	
	メジャー	2	個	50m	
	拡声器	2	個		
	カッターナイフ	10	個		
	ビニールバック	10	袋		
仮設テント(搬入先:埋却地)					発生農場から遠距離に埋却地がなり仮設テントが必要な場合
	机	5	個		
	イス	30	個		
	テント	5	張		
	簡易テント	5	張		
	ゴム長靴白	100	足		
	防護服	200	枚		
	くもり止め	10	本		
	インナーグローブ	200	双		
	アウターグローブ	200	双		
	マスク	200	枚		
	キャップ	200	枚		
	布ガムテープ	100	巻		
	マジックペン	100	本	黒	
	カラースプレー	10	本	赤 300ml	
	カラースプレー	10	本	青 300ml	
	消毒用エタノール	10	本	500ml	
	ストーブ	5	台		冬期
	灯油ポリタンク	5	個		ストーブ用
	灯油	90	L		ストーブ用
	投光器	5	機		
	発電機	5	機		投光器用
	ガソリン携行缶	5	個	20L	投光器用
	ガソリン	100	L		投光器用
	ヘルメット	100	個		
	仮設トイレ	2	台		
	使い捨てカイロ	200	個		冬期
	カップ	100	個		雨天等
	ミネラルウォーター	200	本	500ml	
	スポーツドリンク	200	本	500ml	
	公用車	2	台		連絡、送迎用
	動力噴霧器	2	台		
	手動噴霧器	2	台		
	消毒液	200	L		
	コピー用紙	2	冊	A4 500枚	
	ボールペン	10	本		
	回覧板	2	個		
	ホワイトボード	2	個		
	ホワイトボード用ペン	10	本		
	ホワイトボード消し	4	個		

別 添

資材の調達

(大量に使用することが予想されるもの)

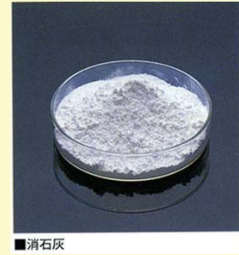
消石灰

県内で製造販売している会社

○宮城石灰工業株式会社

住所: 登米市中田町上沼字北桜場86番地
Tel : 0220-34-2005 Fax: 0220-34-4864
(緊急連絡先: 只野 080-5568-7929)

※協力要請済です。
※製造能力8t/hr



■消石灰

おが粉

県内で製造販売している会社

○守屋木材株式会社 大衡工場

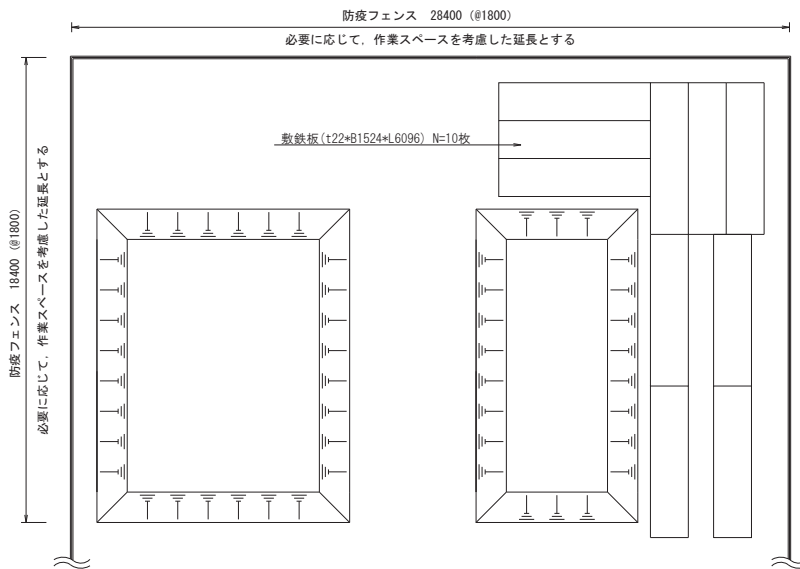
住所: 黒川郡大衡村大衡字五反田32番地の1
Tel : 022-345-2366 Fax: 022-345-2396

※協力要請済です。
※おが粉には種類が沢山ありますので、そのときの在庫状況に応じて、選択して下さい。
※製造能力10m3/hr

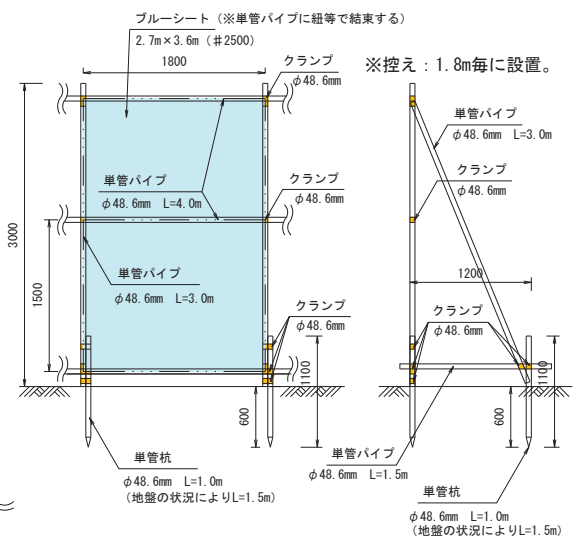


※本資料は、調達先を指定するものではありません。
県内には上記以外にも製造・販売している会社があります。大量製造している会社を参考として掲載しております。34

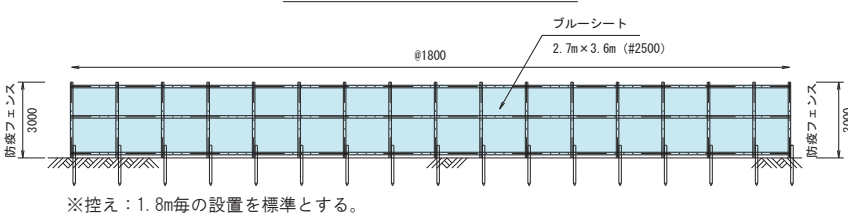
防疫フェンス配置平面図 S=1/200



防疫フェンス詳細図 S=1/50



防疫フェンス配置断面図 S=1/200



工事名	〇〇工区家畜伝染病対策工事	
図面名	防疫フェンス平面図・断面図	
作成年月日		
縮尺		図面番号
会社名		
事業所名		

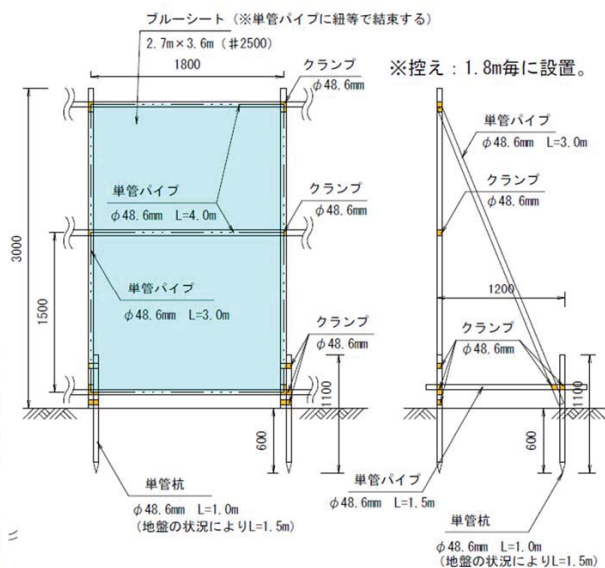
参 考 資 料

～埋却作業の流れ～

36



【防疫フェンス断面図(参考)】

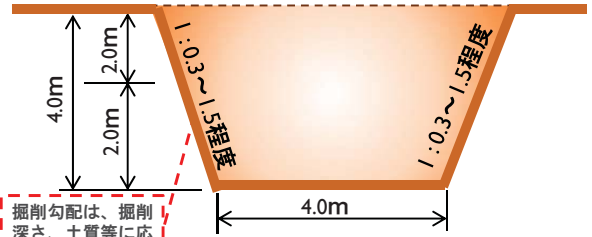


37



掘削状況

【埋却穴の標準作業断面図】



掘削勾配は、掘削深さ、土質等に応じて、関連規則等に則り、安全な勾配を確保する。



掘削完了



※埋却場所が発生農場に隣接している場合。



運搬状況

※埋却場所が発生農場から離れている場合で、トラック運搬が必要な場合。



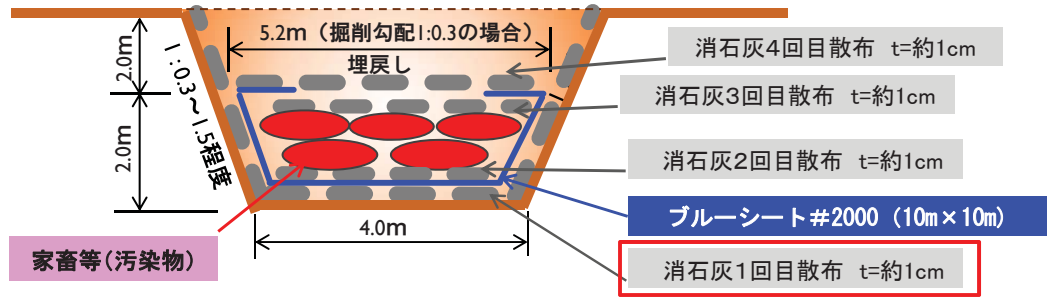
運搬状況



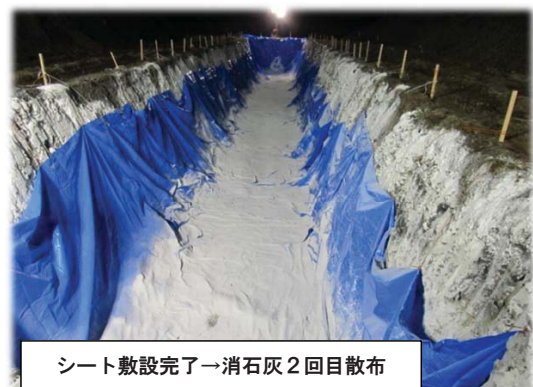
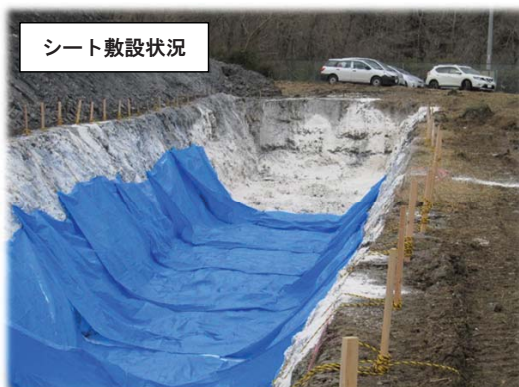
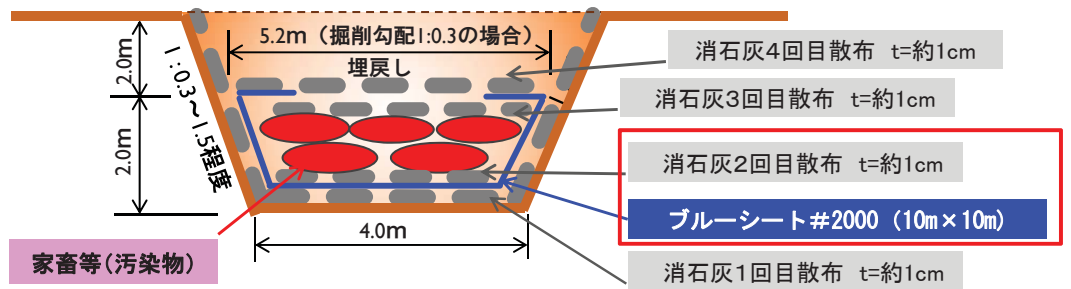
車両消毒ポイント



【埋却穴の標準作業断面図】

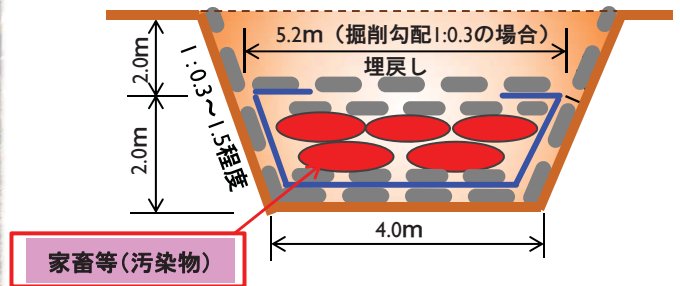


【埋却穴の標準作業断面図】

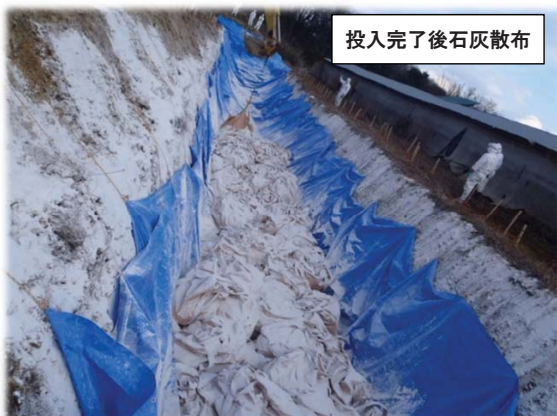
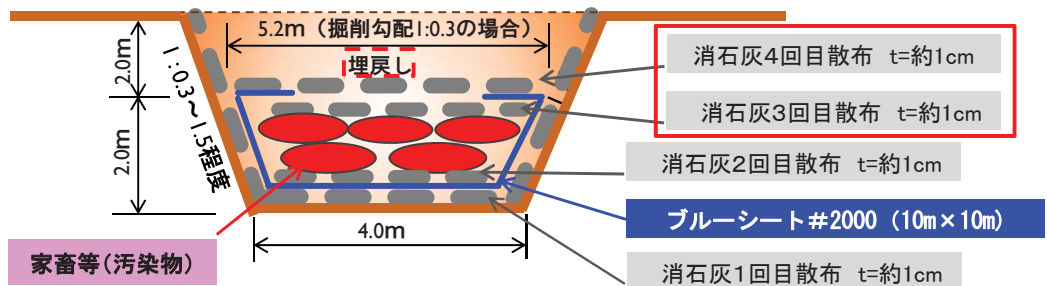




【埋却穴の標準作業断面図】

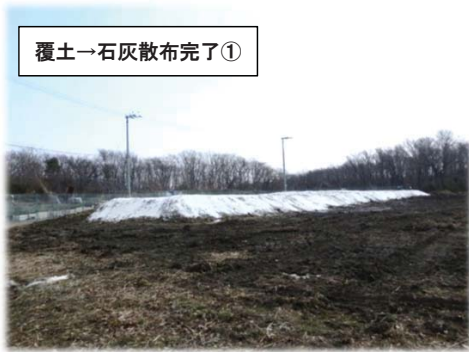
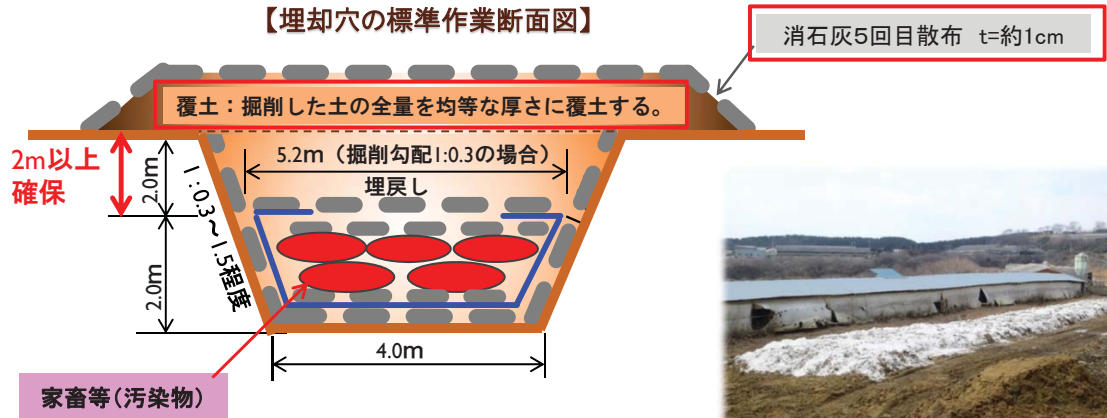


【埋却穴の標準作業断面図】





【埋却穴の標準作業断面図】



平成26年11月 制定
令和 3年 1月 改定

宮城県農政部 畜産課、農村振興課

住 所：仙台市青葉区本町3丁目8番1号

電 話：022-211-2111（代表）

内線2854（畜産課）

内線2865（農村振興課）

Email：tikusan01@pref.miyagi.lg.jp（畜産課）

nosonshin@pref.miyagi.lg.jp（農村振興課）